様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　21　年　5　月　25　日現在

研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2006～2008
課題番号：18530603
研究課題名（和文）　高齢者の特性を活かした学習支援に関する実証的研究

研究課題名（英文）　A Research Study on Learning Conditions for the Senior Citizens

研究代表者　堀　薫夫（HORI SHIGEO）
大阪教育大学・教育学部・教授
研究者番号：60173613

研究成果の概要：高齢者の特性を活かした学習支援の方法を探るため、欧米の教育老年学と第三期の大学に関する文献からの知見の整理、および内外の先進的な高齢者大学などの訪問ののちに、兵庫県西宮市高齢者大学にて受講者全員に対する質問紙調査を実施した。その結果、1．高齢者大学が老後の人間関係再構築の場として機能していること、２．60 代から 70 代にかけて上昇する学習ニーズが存在すること、３．継続受講者には独自の学習スタイルがあることなどが示された。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００６年度	1,400,000	0	1,400,000
２００７年度	800,000	240,000	1,040,000
２００８年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総　計	3,000,000	480,000	3,480,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：教育学・教育学
キーワード：高齢者大学、高齢者教育、教育老年学、高齢者学習、エイジング

１．研究開始当初の背景
（１）社会の高齢化と生涯学習社会化が同時進行するなか、高齢者の特性を活かした学習支援の方策を探ることは今日的かつ重要な研究課題である。しかし高齢者に関する研究の多くは福祉や医療などに関するものが多く、教育学からのアプローチのものはあまりない。

（２）欧米で提起された教育老年学の文脈においては、学習者としての高齢者像が示されており、ここからの知見を軸に実証研究を進めると生産的な知見が得られるものと考えられる。

２．研究の目的
１の状況判断のもとに、本研究では、以下の

理論的・実証的研究目的をもつ。

（1）理論的研究　欧米で示された教育老年学や第三期の大学論などの理論的研究から示された知見を整理し、実証研究の俎上に乗せるように、作業仮説へと組み替えていく。高齢者独自の学習ニーズや高齢者の社会参加のパターン、高齢者教育のプログラム論などである。

（2）実証的研究　（1）から示された知見をもとに、以下のような調査研究を実施していく。①先進的な内外の高齢者大学や第三期の大学の実践分析。②大都市部と地方都市部での高齢者大学のあり方の対比。③高齢者の特性をふまえた学習プログラム作成の方向を示す。

３．研究の方法

（1）理論的研究　①欧米で出された教育老年学などの文献を収集し、その要点を整理する。②内外で示された高齢者大学や第三期の大学のプログラムなどを収集し、その共通点と相違点を把握する。

（2）実証的研究　①内外の先進的な高齢者大学や第三期の大学への訪問調査を実施し、その学習支援方法を整理する。②上記の知見にもとづき、先進的な高齢者大学受講者に対して、その評価と学習ニーズ、希望する学習方法、エイジング観などの質問紙調査を実施し、結果を学習プログラムづくりへとつなげていく方途を探る。

４．研究成果

主な研究成果は次のとおりである。

（1）理論的研究　①欧米での教育老年学の文献においては、教育・学習によってエイジングのポジティヴな側面を深めるという研究がひとつの柱になっている。

②欧米では、高齢者の特性を活かした学習支援の場として「第三期の大学」が存在するが、そこでの学習内容と方法は、「人生の意味を探る」といった点を軸に、伝統的教育支援とは異なる側面を有している。また、イギリスのものとアメリカのものとでは、理念と運営方法に相違点がある。

（2）実証的研究①　高齢者大学などへの面接調査からの主な知見は以下の通りである。

①2000 年代に入ってから、大規模な高齢者大学は規模縮小や統廃合に巻き込まれている。一方で、正規の大学が、シニア向けの大学開放を多彩に展開し始めている。

②高齢者大学での主な学習内容は教養と実技に分かれる。いくつかの高齢者大学では、学習の深化をねらった独自のシステムを構築している（大学院の設置、文集作成、放送大学、県民カレッジなど）。

③欧米ではシニア層への学習機会の開放はより体系的で、国際交流の機会も設置されている。

（3）実証的研究②　兵庫県西宮市高齢者大学（＝宮水学園）での質問紙調査研究から示された、主な知見は以下のとおりである。成果のくわしい内容については、本調査研究報告書でもある、大阪教育大学生涯教育計画論研究室編『高齢者への学習支援に関する調査研究：西宮市宮水学園の事例を中心に』2009 年にてくわしく述べている。

①高齢者の学習参加のパターンは男女などで異なるが、これは老後の人間関係の再構築を必要とする度合によるものだと解釈された。

②60 代から 70 代にかけて、「ライフレビュー」「他の高齢者との交流」を求めるニーズは増加する。つまり、高齢期に活性化する学習ニーズが存在するということである。

③高齢者の学習ニーズは、総称すると「つながり」へのニーズだといえそうである。古典や歴史、芸術といった悠久なもの、および他の高齢者との交流へのニーズなどである。

④高齢者への学習支援方法では、ストレートに他者との交流や競争を行うのではなく、まず見学会などの集会的側面の支援から始めることのほうが好まれている。そこには、学習参加への脅威度が背後にあるものと推測される。

⑤高齢者大学での学習の継続期間が長くなるほど、学習の目的が、教養などの内容的なものから、人間関係の深まりへと移行するといえる。

⑥10 年前の同じ高齢者大学での調査結果と比較すると、その社会的機能は、教養志向から人間関係志向へと変化していた。その他のここ 10 年間の変化を示す調査結果は、下記

の表の通りである。

表　2008年度受講者と1998年度受講者との間で差がうかがわれた項目（兵庫県西宮市宮水学園）

	2008 年度受講者のほうが有意に高率	1998 年度受講者のほうが有意に高率
受講のきっかけ	仲間や友人にさそわれて 費用があまりかからないから 仲間の輪を広げたいから	はば広い教養を身につけるため
受講年数	５年以上	２年以内
最も大事な受講目的	仲間とのつながり	学習内容
受講後の感想	知識や技能が身についた よい友人や仲間を得た	ものの考え方が変わった 学習の習慣が身についた 生きがいを見いだせた 社会を見る眼が広がった ひまな時間をつぶせた あまり期待したほどではなかった
できた友人数	10 人以上	３～４人
交流会活動	積極的に参加していた	ほとんど参加していなかった
自主グループ活動	積極的に参加していた	ほとんど参加していなかった
学習活動への関心	子どもとの交流活動	自分の過去をふり返る 旅行や宿泊の加わった学習 園芸や陶芸など 老後の生き方 ボランティアなど 文学や古典 地域の歴史や文化 現代の政治や経済 習い事 芸術活動
他の学習の場	地域集会施設(公民館･学習センター以外)	県や市が主催する学級・講座 テレビやラジオ、放送大学など ひとりで本や雑誌を読んで
年齢	70 代後半	60 代
以前の職業	無職	管理職
学歴	大学卒	高等学校卒

（４）本研究成果の位置づけと展望など　高齢者関連の研究の多くは、福祉や医学の側面からのものが多く、教育学の観点からのものは大変少ない。本研究では、1,000 名以上の高齢者の学習への意識と実態を調査し、さらに 10 年前の同様の内容の調査結果とも比較検討をしており、非常に貴重なデータが得られたと思う。いくつかの知見は欧米での教育

老年学の成果を追認するものであり、その意味でも高齢者の学習支援の論点がより明確化されたといえる。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

① 堀薫夫「ポール・バルテスの生涯発達論」『大阪教育大学紀要Ⅳ　教育科学』（査読なし）第 58 巻第１号、2009 年９月、印刷中。

② 堀薫夫「成人教育からみた、仕事を通じてのアドアドバイス」『Ｎｕｒｓｉｎｇ ＢＵＳＩＮＥＳＳ』（査読なし）2008 年冬季増刊号、メディカ出版、26-35。

③ 堀薫夫「老人大学修了者の老人大学への評価と社会参加活動の関連：大阪府老人大学を事例として」日本老年社会科学会編『老年社会科学』（査読あり）第 29 巻第３号、2007 年 10 月、428-436。

④ 堀薫夫・福嶋順「高齢者の社会参加活動と生涯学習活動の関連に関する一考察：大阪府老人大学修了者を事例として」『大阪教育大学紀要Ⅳ　教育科学』（査読なし）第 56 巻第１号、2007 年９月、101-112。

〔学会発表〕（計　2　件）

① 堀薫夫「高齢者大学の社会的機能の変化に関する調査研究：西宮市高齢者大学を事例として」日本社会教育学会第 56 回大会　2009 年９月 19 日、大東文化大学（発表予定）。

② 堀薫夫「Paul Baltes の生涯発達論」日本社会教育学会第 55 回大会、2008 年９月 20 日、和歌山大学教育学部。

〔図書〕（計 4 件）

① 堀薫夫『高齢者への学習支援に関する調査研究：西宮市宮水学園の事例を中心に』大阪教育大学生涯教育計画論研究室刊、2009 年、92p。

② 堀薫夫「高齢者の学習と支援」小池源吾・手打明敏編『生涯学習社会の構図』福村出版、pp.57-71、2009 年。

③ 関口礼子・小池源吾・西岡正子・鈴木志元・堀薫夫『新しい時代の生涯学習（第２版）』（と共著）有斐閣、2009 年、283p.。

④ 堀薫夫「高齢者の社会参加と外的な発達資産」立田慶裕・岩槻知也編『家庭・学校・社会で育む発達資産：新しい視点の生涯学習論』北大路書房、pp.135-145、2007 年、

〔その他〕
ホームページ：大阪教育大学リポジトリ
http://ir.lib.osaka-kyoiku.ac.jp/dspace/

６．研究組織
(1)研究代表者
堀　薫夫（HORI SHIGEO）
大阪教育大学・教育学部・教授
研究者番号：60173613

(2)研究分担者

(3)連携研究者